

# 令和2年度第2回れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会 議事概要

日時	令和3年2月8日(月) 14:00~16:00
開催方法	オンライン会議
出席者	別紙参照

## 1 開会

## 2 挨拶

高知市(岡崎市長)

## 3 議事

### 受田座長挨拶

- ・昨年8月のビジョン推進懇談会においても、コロナの対応をどのように図っていくかについて委員の皆様から様々な視点でご意見を賜った。2月に至るまで、沈静化が見られるどころか、その後第2波・第3波によって、多くの皆様が深刻な影響を受け続けている。その中でれんけいこうち広域都市圏が果たす役割として、単独自治体ではできないことを行い、様々な工夫やアイデアが求められることになる。
- ・本日、事務局から前回の意見を反映した内容説明がある。各委員の専門以外の分野でも構わないので、皆様から様々な視点により、現場の声等のご意見を賜り、このコロナへの対応を県全域をあげて、一層改善を図っていくべく、一緒に考えてまいりたいと思う。
- ・特に二段階移住を含めて、移住政策は、大きな肝になってくる。土曜日の日経新聞の夕刊の一面トップに地方移住のことが取り上げられていた。非常に興味深かったのは、移住に関しての窓口である東京のふるさと回帰支援センターのアクセスが非常に増大しているという話があった。月平均で昨年は21万件のアクセスがあり、一昨年に比べて、3万件のアクセス増が毎月認められている。東京の一極集中に関しても、社会増減が減になっていることも含めて完全に流れが変わっていることは、我々もしっかり認識しておく必要があるのではないかと思う。
- ・こういった点も含めて、本日様々なご意見をいただき、次のれんけいこうちの枠組みの中に反映していくことができれば、幸いである。

### 事務局から資料説明

## 以下、委員意見

### 蝶野委員

- ・資料等を拝見し、かなり進んできたなという印象を持っている。関係されている皆様に敬意を表したい。
- ・難しいと思うが、中間年度における見直しとコロナによる見直しを切り分けて、検討していかなければ、アフターコロナにおける対応が難しくなってくるのではないか。
- ・伝統工芸の事業について、サライとタイアップしたというのが素晴らしい。このような素晴らしい取組についてはもっと広報していただければと思う。また、今後どのような取組の展開を考えておられるのかお聞きしたい。

### ⇒総務部

- ・中間見直しとコロナでの見直しとの切り分けについてであるが、コロナに関しては、KPI への反映というよりは、手法面で変化を得てきたところである。
- ・ビジョンの冊子そのものには、大きな変化は見えてこないかもしれないが、KPIの見直しという点で中間見直しの年として検討したことを主にお示しできたと思っている。
- ・特にインバウンドなどコロナの影響が大きいものについては、今後どういう動きを示していくのか、1年見た後に、もう一度目標値を設定していくべきではないかと考えている。
- ・来年度末のビジョン推進懇談会では、4年目の見直しとあわせて、第2期目のプランというのも考えていく必要があるのではないかと考えているので、その点も踏まえながら、今後1年間やっていきたい。

### ⇒商工観光部

- ・伝統工芸の事業におけるサライとのタイアップに係る広報については、いろんな場面で広報をさせていただき、Yahoo でも取り上げられた。この伝統工芸の事業に限らず、広報計画を立てながら取り組んでいきたい。
- ・今後の伝統工芸の販路拡大については、現状で 700 万円を超える金額が販売できているが、これはあくまで通販もしくはサライの別冊付録でのはがき等による申し込み状況であり、まずはどういった年代層にどういったものがうけているのかというニーズを把握することはもちろんのこと、令和3年度以降は、県外の伝統製品の商談会に打って出ることを考えている。
- ・もう一つ課題について、今回のようにサライで販売するにあたって、中間にいるバイヤーと販売の手続き等のいわゆる契約関係の事務というのがすぐにできなかった事業者がおり、掲載に至らなかったというケースもあったと聞いている。そういったところの支援も検討していきたい。

### 杉本委員

- ・コロナで色々と不自由な営業活動をしているが、リモートでできるということがはっきり実証できたのではないか。こういうオンライン会議でも基本的に意思の疎通ができるわけである。商談会はり

リアルの方が当然良いが、リアルの会議には経費もかかる。リモートの商談会や会議というものが常態化していいのではないか。

- 行政に限らず産業界も含めて、手近なところからデジタルトランスフォーメーションを推進していくべきだと思う。中央省庁でも電子機器等も含めて、遅れている中小規模業者に対する支援も行っている。いわゆるバックヤードというか、例えば在庫管理や発注等は相変わらず紙で行っている。そういうものを電子化して瞬時に間違いなくできるような方法が今後産業界で起こっていくと思う。

#### ⇒総務部

- ビジョン改訂案の 50 ページでコロナのことを前提として書いた。DX という言葉は出していないが、今後の社会として、デジタル化・オンライン化を見据えた文言を入れている。
- 連携事業として何ができるかについては、まだ見出せていない状況であるが、高知市では、2月1日に市内の組織である DX 本部を立ち上げた。こうした動きを県の協力を仰ぎながら、いかに他の市町村に共有できるかについて考えていきたい。

#### 受田座長

- リモートの常態化というところは極めて重要であり、さらに発展をさせていくと、今まで国内だけで想定をされていたマーケットがいきなりグローバルなところまで広がっていく可能性と想定外の発展もあり得る。伝統工芸の話などをグローバルな展開でどう見ていくのかや、リモートを含めて海外とのやりとりなど、ぜひまたご意見をいただきたい。
- 今の点に関して、各自治体のオンライン対応であったり、RPA までとは言わないが、DX という視点で見たときにそれぞれのレベル感というのがだいぶ違うのではないかと想像をしている。このれんけいこうちの枠組みの中で相互支援という形で、より環境の整備が進んでいくことがあれば非常にこのれんけいこうちの枠組みが生きてくるのではないかとも思っている。

#### 五百蔵委員

- このコロナ禍の状況というのがどれくらい続くかという中で、前もって、自信を持って判断するというのが難しいところだと思う。今回説明いただいた令和3年度に向けての取組案については非常に入念に検討されて進んでいくことが感じられて期待するところ。
- 広報という点でいくと、デジタル化を一層進めていくことが大事であると考え。ハード的な部分とソフト的な部分(ソフトウェアというよりは人の部分)を一層進めていくことが大事ではないか。
- リアルタイムでライブ配信しているものを次はオンデマンドで見ることができるようにして、繰り返し見ていただけるよう変えていく。特に学習に関するようなものについては、何度も繰り返し見たり聞いたりすることができるのと理解が深まっていくので、コロナ禍で行われている遠隔教育という分野からもよく指摘されていることで、1つの媒体というものをうまくつなげていくということも考えてみることもできるのではないか。

- ・資料を見ると、ウェブサイトの運営や活用という言葉が多く見られて、その方向に進んでいっていると感じた。メインの重要な情報というのはホームページが置かれているウェブサイトにあると思うが、ウェブサイト自体はアクセスを待つというツール。そこに引き寄せていく方法として、SNSの活用について探っていくのではないかと。SNSの拡散機能をうまく利用して、メインとなるホームページに引き寄せていくことなどが考えられるのではないかと。
- ・多言語化について、自動翻訳機能などもうまく使うと、国外からのアクセスを高めるというところにつながる。
- ・市町村間のコミュニケーションを強化する部分でもメディアをうまく使えるのではないかと。

#### ⇒総務部

- ・部分的ではあるが、現在も手法として取り入れており、これからいかにそれを広げていくかというところを、意見をいただいて感じたところである。
- ・オンデマンド、アーカイブ化のところ、市町村の職員向けに RESAS やアンケートのやり方等について、統計データ活用事業の中で勉強しようと、高知大学の先生にご協力いただきながら進めているところ。その中で、研修風景等を動画に撮ることで、先生に毎回来ていただかなくても職員が少しフォローをしながら、研修を進めていくことを考えている。対面の方が望ましい部分もあるが、オンラインでやってみようと考えている。
- ・SNSを活用した取組について、移住などはInstagramなどを市町村間で輪番制にして、きれいな写真などを載せていく取組等をしている。情報を欲している方はいかに伝えるかというところが非常に大事だと思う。そこで苦労している部分もあるが、他の事業に関してもそういったやり方ができないかという視点を今後も持っていきたい。

#### 西村委員

- ・銀行としては、いかに取引様また企業の方、個人事業者の方にこういった取組をどのようにして理解していただくか、また目指している KPI に近づけていくお手伝いができればよいと思っている。
- ・デジタル化が進む中で、商品の商談会などをオンラインでやることによって、より1対1で対話ができ、アピール性が増したのではないかとのお声もいただいている。高知県はアピールが弱いのではないかとよく言われるが、アピールの仕方というものを銀行の方でも事前にレクチャーをさせていただいて、より効果的な時間の使い方もアドバイスをさせていただいている。
- ・ホームページをお持ちでない、デジタル化に今まで取り組んでいなかった企業などにはビッグアドバンスを利用して、ホームページの支援や、ビジネスマッチングなどもできる。そういったことを推進することによって、デジタル化というものにまずはとっかかりを見出してもらえたらということでお手伝いをしている。
- ・ビッグアドバンス(地域の中小企業者を支援するプラットフォーム)には、いろんな金融機関や高知県がこのサイトに情報を入れており、企業がこのサイトに加入すると、補助金の内容を確認できたり、例えばどこかの企業が「こんな商品が欲しい」と発信した場合、「私の商品を使ってください」

と手を挙げていくこともできるような仕組みになっている。ホームページについても1つの形式があるので、それを利用するとホームページが作れるといったようなものがある。

- ・ホームページを使ったり、ウェブサイトへ引き寄せる方法として、「# 田舎暮らしは甘くない」などの突出したものでPRしていく必要があると感じている。
- ・新商品のところであった機能素材株式会社について、クラウドファンディングで一緒に支援させていただき、大きな反響があった。新商品を発信するツールとしてクラウドファンディングの利用をお勧めをしている。
- ・につぼんの宝物グランプリという取組があるが、商品のブラッシュアップだけでなく、生産者の思いなども伝えるグランプリであり、全国や世界で高知県の食というのが注目されており、爆発的な売れ行きがあった企業もある。そういったものとうまく組み合わせながら、自分たちの商品をアピールする方法、いろんなツールを使って発信するような支援をしていきたいと思っている。

#### ⇒商工観光部

- ・ビッグアドバンスについて、高知市も参加させていただく予定で、市の補助金情報等についても発信をしていきたいと考えている。
- ・昨年、コロナの第一波というところで、販路で非常に厳しい思いをされた市内の事業者さんがたくさんいる。EC サイトを持っておらず、対面での販売方法しかなかったため、お客さんに来ていただけなかったところもあり、高知市では昨年度 EC サイト構築の補助金制度を構築し実施したが、予算を3日で使い切るという好評な状況であった。来年度も取り組んでいきたい。
- ・グルメ&ダイニングスタイルショーでは、圏域の事業者の皆さんと一緒に出店する際に、「こうちプレミアム」という看板で取り組んでいる。将来的には、このれんけいこうちの枠組みで「こうちプレミアム」という看板を使って、圏域の事業者に参加を募って、取りまとめたECサイトの構築というものに取り組んでいきたいと考えている。令和5年度頃には実現したいと考えており、今検討をしている。

#### ⇒受田座長

- ・普段から金融機関の皆さんとの情報交換は行っていると思うが、こういう場をまた更にきっかけにして、活発化していただければ、事業者の皆さんにとっても有効な具体策をご提案できると思う。

#### 野並委員

- ・ワクチンは14日に日本に入ってきたという経過で、まだまだその数がどこまで全体に回ってくるかわからず、なかなかワクチン接種が先へ進まないのが現状である。
- ・今日、医療従事者に対するワクチン接種の説明会を高知市の医師会の方で開催をするところで、65歳以上や一般の方へのワクチン接種はずいぶん先のような印象を持っている。
- ・ビジョンの改訂案を読ませていただいて、大変よくできていると思う。

- ・一次産業のところにお酒があまり書かれてないのが、非常に残念である。二次産業のところに出てくるが、お酒については、一次産業でいいのではないかという印象を持っている。このビジョンそのものがいろんな産業の中で連携をとるためのカタログのような、よくできた仕上がりになっていて、大変良い仕上がりになっていると思う。各産業の中でコラボできるものがあれば、コラボしていただけるような、そういうカタログの仕上がりになればさらにいいと感じた。
- ・特に医療関係では、68 ページに災害に強い圏域づくりの推進という部分があるが、こういった災害に関することは常に刷新していかなければならないことである。例えば災害に強い市民・県民をつくっていくための教育的なことについて、もう少し各分野で協力し合うことが大切である。例えば小学生や中学生に災害に関するイベントに参加してもらって、災害に強い子どもたちをつくっていくような動きができれば、連携という意味で大事なのではないかと感じた。
- ・コロナにより、人が集まれないということで、ウェブの会議が増えた。医師会として市民に対する講演会も開催ができなかったが、市民にアピールできる何かがないかと考え、講演会をテレビで放送するという企画を立て、12月に放送した。リアルの会となると参加者は概ね200人～300人であるが、テレビで放映すると、極端な話、何万人という規模に見てもらえる。新しい体験であったと思う。コロナの中の経験を今後色々と利用していければよいと考えている。

#### ⇒総務部

- ・お酒は一次産業でいいのではないかというご意見に関して、ビジョンへの記載の仕方について検討させていただく。高知市の日曜市では、どぶろくはもともと取り扱っていなかったが、少しずつ規制緩和をする中で、お米から作っていることもあり、どぶろくも販売しているのではないかということで現場対応として一次産品という捉え方で現在販売できるようになっている。
- ・各産業間のコラボについて、につぼんの宝物グランプリの考え方が加工業者と生産業者を繋げられないかという考え方が基になっており、ビジョンに掲載されている6次産業化推進事業といった事業は今後も続けていく。分野間での連携事業というものは、現時点で具体的なものはないが、また新たな視点でご意見を賜ったと感じており、さらに検討していきたいと考えている。

#### 明神委員

- ・前回の会議で中間年度あるいはコロナ禍の途中であるということで、事業の見直しが必要ではないかと申し上げたところであり、それを受けて、各事業それぞれ非常に素晴らしい工夫を行い、コロナ禍で事業を中止したものがそれほど多くないという印象を持っている。
- ・特にビジョン改訂案の50ページの具体的な取組の見出しの部分に今年度の対応、それから今後状況の変化に応じた見直しということで方向性を示しているということも非常にいいと思う。
- ・資料6のほうに投資額が一覧で出ている。大型船舶の寄港、インバウンド観光、AIの活用というところがそれぞれ総額で1億6,000万円、2億2,000万円、4,900万円と大変大きな投資になっている。中心となるのが、インバウンド対応であろうと思う。我々も大いに期待していたところである。一時的とは言え、ターゲットを国外から国内に向けたところであるが、観光案内所が一番大きな事

業で、契約のこともあり、簡単に方向転換は難しいと思うが、今後のインバウンドの事業回復を見据えて、多大な投資が大きな役割を果たしていくことを期待したい。現状について、こういった多大な投資という部分についてご所見があればお伺いしたい。

- ワークーションというところで、四国周遊型ワークーションの推進協議会が設立され、高知県、高知市のほうは参画がないようであるが、高知県では補正予算でもこの取組がされておるところで、こういったものに関して、どういったご対応があるかお聞きしたい。

#### ⇒商工観光部

- インバウンド関係のこれまでの投資について、大型客船寄港誘致推進事業及びインバウンド観光推進事業について多額の予算額で、対応してきた。大型客船寄港誘致推進事業については、コロナ前までは順調に伸びており、かなりの額が市内でも消費されていた。それをれんけいこうちの枠組みで、お客さんを無料バスで周辺市町村の観光地まで案内をしてそこでお金を落としていただく仕組みを作っていこうという取組まで進んでいたが、ダイヤモンドプリンセス以降、全くクルーズ船は動かなくなり、今年度は2隻の寄港に留まっている。来年度は現段階で27隻、特に邦船を中心として寄港をいただくことになっているため、新型コロナウイルスの感染対策を十分にしながら、れんけいこうちの枠組みでも事業を進めていきたい。
- インバウンド観光推進事業は、帯屋町に整備した観光ナビツアーリストセンターで連携市町村の各観光地なども外国人向けに案内をしていこうと、通訳ができるスタッフなども常駐するという仕組みで取り組んできたが、観光客は今ストップしている状況。ターゲットを国外から国内に変更し、需要をこれからいかに取り入れるか、この観光案内所で実際に行う具体的な事業を検討している。将来的に海外からの観光客が戻ったときに観光案内所の有効活用について、関係市町村とも検討して進めてまいりたい。
- ワークーションについて、県では、今年度補正予算を組んで、仕事とバケーションを両立できるような形で施設のWi-Fi化等にご支援いただくメニューを作っていたが、高知市は手を挙げていない。ただ、別事業で中心市街地にシェアオフィス(企業がスモールスタートを切れるような小さなオフィス)を設置するという事業を進めている。民間事業者に設置いただいて、そのインシヤルコストを県にご支援いただき、ランニングコストについては県と市で支援をしていこうと進めている。都市部で仕事をする意義が少し薄れている方もいるので、そういった需要も取り込みながら、観光と連携をさせていきたいと考えている。その取組についても周辺の市町村と連携できればと考えている。

#### ⇒井上委員

- ワークーションについては、県で様々な市町村の支援をさせていただいている。地方への新しい人の流れを作っていくということはウィズコロナ・アフターコロナの中で一生懸命頑張っていかなければいけないと思っている。高知市はじめ、市町村と連携しながら、多様な働き方ができるような受け入れ体制の整備や住まいの確保などを進めていきたい。

## 黒笹委員

- ・コロナ対応で KPI の修正や方向性を変えたという報告があったが、コロナがあるから新しく始まった事業は何なのか。先日私が出席した高知県産業振興計画のフォローアップ委員会観光部会で提案を差し上げたが、コロナがブレーキで振興策がアクセルという考え方は、ステレオタイプだと思っている。コロナをアクセルに変える方法をしっかりと考える必要があり、具体的な先手を他の地域に先駆けてやっていかないと、お金も人も力も小さいわけで、間に合いませんよという話をした。違う言い方をするとコロナ禍をどう活かすのか。他の地域も一緒にやっているわけで、高知県が地域間競争の中で生き残っていくことはできないのではないかと思う。
- ・コロナを受けた形で、全国的にシェアオフィスの需要やワーケーション、EC サイトが実際に爆発的に拡大しているわけで、場合によっては、都市圏の住民が今まで以上に新しいふるさとづくり、第2のふるさとを本能的に探し始めているところである。れんけいこうちでは、二段階移住をやっており、その取組の中でこのコロナの新しい流れをどのように人の流れづくりにつなげていくかということを具体的な事業として知りたい。それがあれば、具体的に応援ができる。
- ・市町村間コミュニケーションの強化を取り入れていただき、こうちぎょうせいネットを活用した取組について書いているが、つないだだけでは仕方ないので、そこを使ってどんな情報を発信していくのかという設計を教えてください。情報共有についてもどういう情報を落としていくのかによって何が起きるか全く変わってくる。
- ・伝統製品の事業はサライとのタイアップで実施されたと思うが、売り上げが 700 万円は全然足りないと思う。私が小学館在籍時には、3,500 万円くらい稼がないといけないと思ってやっていた。伝統産業ということで多少不利なところはあるが、小学館の努力が足りないところなので申し訳ありませんと謝るしかない。
- ・高知市側の理由ではないと思うがまるごとにつぼんが終了した理由を知りたい。
- ・二段階移住パスポート発行部数について、一般的にパスポートというと部数が多いことが想定されるが、これは非常に少ない。どういう条件で発行されているのかお聞きしたい。

## ⇒総務部

- ・れんけいこうちで何か新規事業ができないかという検討をしてきたが、今日時点でお示しできるものがないため、この点については申し開きのしようがない。新しい取組としては、インターネットを活用した今後の販路開拓や空き店舗のホームページの改修等について検討している段階である。
- ・もともとコロナで検討を始めた事業ではないが、体験型地域資源開発・活用事業については、マイクロツーリズム的な考えも踏まえ、高知市民の方に県内の小さいイベントに参加してもらおうという考え方を基に市町村からご提案いただいたもので、結果論ではあるが、コロナと考え方が合致した形で生まれた事業になる。
- ・新しいふるさとづくりという点については、高知市の移住部門も今一生懸命考えており、おそらく市町村ごとにいろいろ策を練っていると思う。れんけいこうちの事業になると 34 市町村でどう進め



るかという話になってくるので、どうしても時間がかかってしまう。

- ・情報共有については、DXに関連した内容を高知市から情報提供すること等を現時点で考えている。
- ・二段階移住のパスポートについては、基本的に補助金の交付決定をする方にお渡ししている。パスポートには33の市町村のスタンプを押す欄があり、スタンプを各市町村が持っている。3カ所以上回ってきたら、補助金を差し上げるという制度にしている。
- ・高知市の一宮に高知県職員住宅があり、県にご協力いただき、その部屋をお借りし、お試し滞在の場所と位置づけている。そこへ入る方にもパスポートをお渡しし、県内の市町村を巡ってもらう取組にしている。

#### ⇒商工観光部

- ・サライの件について売り上げが少ないというご意見に対して、我々もそういう認識である。もともと他の市町村や圏域でやられた地域産品の同じような企画で2,800万円くらいの売り上げがあり、そこを目指していこうということで、経費も700万円くらいかけてやっている。販売期間は残り1ヶ月弱ほどあり、売り上げをもう少し伸ばしたいと我々も考えている。
- ・まるごとにつぼんについて、もともとあの場所は映画会社が所有されている建物で、まるごとにつぼんの運営会社が昨年11月までの契約で借りていたという事情がある。
- ・全体の売り上げも伸びてきていたため、交渉次第によっては賃借期間が伸びることも期待もしていたが、昨年の2月からは完全にコロナの影響を受け、例年は1,000万円を超える売り上げがあったが、400万円程度にしか伸びなかったため、予定通りの閉館が決まった。跡地がどうなるかについて注視していたが、異分野の企業が入るといった情報があった。

#### ⇒黒笹委員

- ・サライのような通販の場合、特に伝統商品の販売の場合は、事務局の顧客対応が一番大切である。大量生産のものをたくさん売るわけではないので、納期などの問い合わせに対応する必要があり、事務局の努力を促してほしい。

#### 伊藤委員(川淵委員代理)

- ・私自身も知らない施策もあり、支店を通じて地域にアナウンスしていくということが十分にできていないのではないかとすることも改めて感じた。
- ・サライのアンケート結果に応じたニーズに絞っていくという施策はよいと思う。観光や食品のアナウンスにも活かされればよい。狭いニーズというのが雑誌などでも色々あり、面白いニッチな雑誌(観光やアクティブシニア専門の雑誌や旅行雑誌等)も参考にしながら、視点を変えて取り組むと面白い。
- ・黒潮町や東洋町にサーファーが来ているが、中高年のサーファーが増加しているということで、富裕層への情報発信源として利用するのも面白い。そういう視点を変えた取組をどんどんしていた

だきたい。

- ・連携を進めるには中核市と郡部との連携など、市町村同士の連携というのが重要である。市町村同士の連携について言えば、隣り合った市町村でも持っている資源や需要というのが違ってくる。例えば食品産業の素材について、サプライチェーンで、一次製品の小規模ロットの多い郡部を取りまとめて製造業者につなげられるような仕組みがあれば面白い。人材についても、ある市町村については介護の人材が足りないが、隣の町では事業者自体が少なくて、子どもの就学時間であればパートで勤務できるとか、そういう有資格者が結構おられるということがあったりする。遊休農地や果樹園も同様に資源の需給の凹凸が生じているようなケースがあるかもしれない。同じ製造業で繁忙期の違う事業者の間で、在籍したままで出向し、融通し合えるような、民民契約に頼らずできる、ハローワークの拡大版のような仕組みができれば面白い。
- ・新しい人や仕組みを地域に呼び込むだけでなく、今ある資源を各市町村、分業などで有効に使う仕組みなども大事である。市町村同士の資源や需要を民間も含めてデータベースでいつでも見られるようにすれば、地域に眠っている資源を有効に活用できるかもしれないと感じる。こうちぎょうせいネットなどもさらに発展的に活用できるのではないかと考える。

#### 井上委員

- ・二段階移住の関係で、KPI の適正化という話があったが、現実には大幅な切り下げにも受け取れるので、何とかもう少し志の高い目標を持っていただきたい。今、東京への転入超過も抑制され、地方への新しい人の流れやワーケーション・シェアオフィスといった形での多様な働き方のバランスなどが重要となっている。居酒屋をテレワークとして活用する事業を支援する自治体もあり、そうした方々も増えてくると思うので、そういう働く場・受け入れの場を整備するというのはこれから県と一緒に、取り組んでいただきたいと思う。
- ・お試し滞在住宅についても、さらに増やしていただいて、新しい人の流れを作るというのはコンパクトシティである高知市としてはチャンスだと思うので、県と連携しながら移住促進また二段階移住の推進に向けて、志の高い目標をもっていただいて、施策の充実に努めていただきたい。

#### ⇒受田座長

- ・地方分散型社会の実現に向けて、一気に時計が回ったという状況であり、他地域より移住が実現していないのであれば、その具体的な理由を明確にすべき。
- ・空き家の確保や、空き家のリノベーションが進んでいないので、空き家のデータベースを見ても、そこに移動しようという気にならないという方が大勢いるのではないかとと思う。他の地域と比較して勝負をしていくとすれば、法的な難しさなどもあるかと思うが、高知だからこそできるという点でオリジナリティのある施策に落とし込んでいくべき。仮に法が邪魔しているのであれば、規制改革の提案もすべきであり、規制改革推進の土俵に持ち込んでいくという気概があっているのではないかとと思う。ここが勝負の重要な時期であり、れんけいこうちの枠組みだからこそできることを考えていただきたい。

- ・委員の皆様においても、このビジョン推進懇談会という場所がアイデアの宝庫であり、それを求められていることをぜひそれぞれの委員にご貢献いただけるようお願いを申し上げたい。

**議事終了**

**受田座長**

- ・まとめとして、本日の議事でいただいた意見を受け、改訂ビジョンへの反映について事務局で検討の後、座長と協議を経て修正案とすることに一任いただけるか。

⇒異議なし。ビジョン改訂については座長一任。

(ビジョン推進懇談会終了)